

## 消防団長紹介



### 太子町消防団 団長 植村 俊和

太子町は、金剛・葛城の山々に囲まれた自然豊かな土地です。特に、遙か太古の昔から石器の原材料とされてきた「サヌカイト」と呼ばれる石、その産地としても有名な二上山は、初心者でも登りやすい山として多数の登山客で賑わい、大阪-奈良間を行き交う人々のランドマークとして広く親しまれています。

また、飛鳥時代には、平成 29 年度に日本遺産に認定された大道（後の竹内街道）が整備され、遣隋使として知られる小野妹子も、また大陸からはるばるやってきた使者たちもこの道を通ったと言われていました。そしてこの頃、周辺に数多くの天皇や皇族クラスの古墳が築造されたことから、太子町一帯を指して「王陵の谷」とも呼ばれています。

現在は、ぶどうやみかんなどの生産が盛んで、特に最近テレビでも注目を集めるシャインマスカットは絶品です。太子町にお越しになられた際は、是非ご賞味ください。

太子町消防団は、1956 年（昭和 31 年）9 月、旧磯長村と山田村の合併に伴い、両村の消防団員を引き継ぐ形で発足しました。現在は、消防団長と副団長からなる本団と、町内に 5 つある大字地区の名を冠した 5 分団、総勢 109 名によって組織されています。普段は、毎月 5 日と 25 日に各分団詰所に集まって、消防車で町内の巡回、機械器具の点検、無線通信訓練、放水訓練などを行っています。また、富田林市消防署太子分署と連携しながら、山火事が起こった際に複数の消防ポンプを繋げる遠距離送水訓練なども実施しています。

私は、昭和 58 年 1 月 6 日に入団、以後は班長、分団長を歴任し、平成 26 年 4 月 1 日からは副団長、令和 4 年 4 月 1 日からは消防団長に任命され現在に至ります。

消防団に入団してから早くも 39 年が経過しましたが、これまでで最も記憶に残っているのは、平成 29 年度に大阪府消防操法訓練大会・小型ポンプ操法の部で優勝したことです。

当時、私は副団長として前任の消防団長をサポートする身でしたが、ゴールデンウィーク明けから 9 月上旬まで、約 4 ヶ月間にわたって週 3 日の訓練を行いました。

といっても、実際に訓練するのは大会に出場する選手達で、私は彼らを励まし、

そして時に叱りながらも見守ってきました。

しかしながら、彼らの大半は初出場、ポンプ操法っていったい何？という状態からのスタートです。教官に厳しく指導されて落ち込む者もいれば、休日を返上してまで個人練習に励む者もいました。そんな彼らをまとめるのは一筋縄ではなく、指導方針や大会に懸ける思いを巡って議論を闘わせることもしばしばでしたが、それでも日に日に成長を続け、順調にタイムを短縮していく彼らの雄姿に、熱い消防魂を感じたものです。

迎えた本番は、皆どこか緊張して落ち着かない雰囲気でしたが、それでも全員が持つ力の全てを発揮し、結果として優勝を勝ち取ることができました。

これはひとえに、うだるような猛暑の中、厳しい練習に耐えてくれた選手達はもちろん、そんな彼らを熱血指導して下さった富田林市消防署太子分署の教官方、そして陰ながら彼らをサポートしてくれた消防団員達、全員の力が一つに合わさった結果だと思えます。改めて太子町消防団は素晴らしいチームだと実感するとともに、現在は消防団長として彼らを率いる大役を担っていることに身が引き締まる思いがあります。

太子町は、人口約1万3千人と小さな町です。

小さな町ですが、奈良県との県境に山林が広がっていたり、昔ながらの木造家屋が密集する地域があったり、また千年以上もの昔から先人が守り継いできた文化財もたくさんあります。

歴史深い緑豊かな土地といえそうですが、ひとたび火災が起きれば、これらは一瞬のうちに燃えてなくなってしまうかも知れません。

私たち太子町消防団は、第一に住民の生命・身体・財産を守ることをモットーに、郷土愛護の精神をもって日々活動しています。

火災は起こさせないし、もし起きてしまったとしても全力で延焼を防ぐ。

行方不明者が出た時も団員総出で捜索しますし、大規模災害が発生した時も同様です。

自分たちの地域は自分たちで守るという当たり前のことを、これからも太子町消防団員全員が一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、どうか末永くよろしくお願ひします。